

令和元年度(2019年度)

管理事業名	大学・ホームタウン等関連事業				総合計画の体系	大綱 7 政策 3 施策 2	都市魅力 市民が愛着をもてるまちづくり 本市独自の強みを生かしたまちづくり
主な歳出 予算科目	一般会計	(款) 2	総務費	(項) 1	総務管理費	(目) 33	スポーツ推進費
部局名	都市魅力部	予算執行所属	文化スポーツ推進室・シティプロモーション推進室				
予算大事業名	大学・ホームタウン等関連事業						
上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名	(款)総務費(項)総務管理費(目)シティプロモーション費 大学・ホームタウン等関連事業						
事業の目的と概要 本市とパートナーシップ協定を締結し、市立吹田サッカースタジアムを本拠地として、J1リーグで戦うガンバ大阪を市全体で応援することにより、「ガンバ大阪のあるまち」としてのふるさと意識の醸成やホームタウン意識の醸成を図り、市民が愛着をもてるまちづくりを目指すとともに、スポーツの推進及び青少年の健全育成及びにぎわい及び活力のあるまちの創造を図ることを目的とします。各事業については、スタジアムのネーミングライツの対価を活用し、小学生をスタジアムに招きサッカー体験や防災体験を行う「市民ふれあい事業」を始め、ガンバ大阪のホームゲームへ市民を招待するなどの事業を通じ、ガンバ大阪や世界に誇れるスタジアムを体感する。 市内の5つの大学および大学教育機能をもつ研究機関と連携を図ることで、各機関が有する豊富な知的財産、人材、情報、施設などをまちづくりの各般で生かし、双方の発展に寄与する取組を進める。							

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	成果指標の定義
ホームタウン推進事業参加者数	人	3,532	14,686	4,640	ガンバ大阪と市民のふれあいイベントなど応援イベントへの年間参加者数
大学との連携事業実施回数	回	96	103	134	市内各大学との連携による事業やイベントなどの年間実施回数(目標件数:120回)
成果の説明	ホームタウン推進事業については、市民ふれあい事業(まなびの支援課・危機管理室・環境政策室との連携)861人、パブリックビューイング1,500人、J1リーグ市民招待1,759人、ガンバ大阪のあるまち推進補助金事業520人の参加がありました。前年度比約10,000人減の理由としては、J1リーグ市民招待の席グレードを上げ、招待人数を絞ったこと、市民ふれあい事業について、ゴールデンウィーク10連休の影響、広告料の支出により幼稚園・小学校へのコーチ派遣が事業でなくなったことが挙げられます。 大学との連携事業実施回数については、大学連携の窓口として大学連携推進協議会等を実施し、市と各大学のつながりを広げています。目標の連携回数を超えることができました。				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	平成29年度	平成30年度 A	令和元年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	-	-	-	-
国庫支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
府支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	-	-	2	2
経常収入 小計(a)	-	-	2	2
給与関係費	-	-	633	633
物件費	-	-	64,836	64,836
維持補修費	-	-	-	-
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	-	-	2,981	2,981
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	-	-	-	-
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	-	-	-	-
退職手当引当金繰入額	-	-	-	-
支払利息	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
経常費用 小計(b)	-	-	68,450	68,450
経常収支差額(a)-(b)=(c)	-	-	△68,448	△68,448
特別収入	-	-	-	-
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別収入 小計(d)	-	-	-	-
特別支出	-	-	-	-
固定資産除売却損	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別支出 小計(e)	-	-	-	-
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	-	-	-
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	-	-	△68,448	△68,448
一般財源充当額	-	-	6	6
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	-	-	△68,442	△68,442

勘定科目	決算額の主な内容
物件費	【主な内訳】 委託料 8,671千円 役務費 54,440千円(広告料)
負担金・補助金・交付金等	ガンバ大阪のあるまち推進事業補助金 2,821千円 サッカー体験指導に係る報償費 160千円

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表 (単位:千円)

区分	平成29年度	平成30年度 A	令和元年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	-	-	2	2
行政サービス活動支出	-	-	68,450	68,450
行政サービス活動収支差額	-	-	△68,448	△68,448
投資活動収入	-	-	68,442	68,442
投資活動支出	-	-	-	-
投資活動収支差額	-	-	68,442	68,442
財務活動収入	-	-	-	-
財務活動支出	-	-	-	-
財務活動収支差額	-	-	-	-
収支差額 合計	-	-	△6	△6
一般財源充当額	-	-	6	6
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の主な内容	(投資活動収入)ネーミングライツの対価を積み立てているスポーツ推進基金からの繰入金
----------	---

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
参加者1人あたりのコスト	平成29年度		円	ホームタウン推進事業に係る費用の全ては、スタジアムのネーミングライツの対価を活用しています。委託料等だけでなく、パートナーメリットとしての事業実施があるため、広告料としての54,440千円を含んだ額で単位当たりのコストを算出しています。
	平成30年度		円	
	令和元年度	4,640人	14,752円	
	平成29年度		円	
	平成30年度		円	
	令和元年度		円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	平成30年度末 A	令和元年度末 B	差額 B-A	勘定科目	平成30年度末 A	令和元年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	-	-	-
未収金	-	-	-	地方債	-	-	-
流動資産	-	-	-	短期借入金	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	賞与引当金	-	-	-
短期貸付金	-	-	-	未払金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	リース債務	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	その他流動負債	-	-	-
有形固定資産	-	-	-	固定負債	-	-	-
土地	-	-	-	地方債	-	-	-
建物・工作物	-	-	-	長期借入金	-	-	-
リース資産	-	-	-	退職手当引当金	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	リース債務	-	-	-
無形固定資産	-	-	-	その他固定負債	-	-	-
有形固定資産	-	-	-	負債の部合計	-	-	-
土地	-	-	-	純資産	-	-	-
建物・工作物	-	-	-	重要物品	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	図書館資料	-	-	-
重要物品	-	-	-	投資その他の資産	-	-	-
図書館資料	-	-	-	出資金	-	-	-
投資その他の資産	-	-	-	長期貸付金	-	-	-
出資金	-	-	-	基金	-	-	-
長期貸付金	-	-	-	徴収不能引当金	-	-	-
基金	-	-	-	その他債権	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	資産の部合計	-	-	-
その他債権	-	-	-	負債及び純資産の部合計	-	-	-
資産の部合計	-	-	-				

Ⅲ 財務構造分析

▽人にかかるコストの内訳

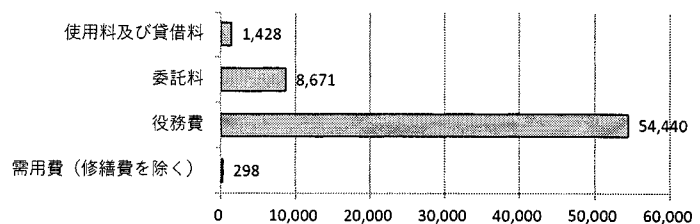
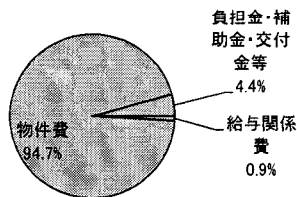
事業従事人数	常勤・再任用		非常勤	臨時雇用員	審議会委員等
	月平均	人	月平均	年間従事延日数	実人数
給与関係費等		千円		78日	千円
内、時間外勤務手当	0	千円		633	千円
					合計(千円)
					633

貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由

▽経常費用の構成割合

物件費の内訳(単位:千円)



▽分析指標

(単位:%)

分析指標	年度	平成29年度	平成30年度 A	令和元年度 B	差 B-A
受益者負担比率		-	-	-	-
徴収不能引当率		-	-	-	-
一般財源充当比率		-	-	0.0	0.0

▽その他特記事項

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

ホームタウン推進事業については、市立吹田サッカースタジアムのネーミングライツで得た対価を積み立てたスポーツ推進基金から68,442千円を当該事業へ充当し、スタジアムでの「パブリックビューイング」、市内の小学生を対象とした「市民ふれあい事業」、Jリーグ市民招待事業、スタジアム内外での吹田市の啓発のための看板等の掲出の実施やガンバ大阪を応援する団体が実施する事業に対する補助金の交付により、多くの市民がスタジアムとガンバ大阪にふれあい、ホームタウン意識の醸成が図られました。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

ホームタウン推進事業については、さらにホームタウン意識の醸成を図るため、市だけでなく市内のガンバ大阪を応援する団体などとの連携・協力を強化し、オール吹田での取組を進めるとともに、事業の拠点をスタジアムだけではなく市内全域へと広げる必要があります。各大学との連携については、大学のあるまちの特徴を活かし、問題解決型授業等を実施して、各大学との連携の強化を進めてまいります。※総合計画体系に沿って事業の再編を行ったため、過年度の数字は表示していません。